

令和二年度入学者選抜試験

個別学力試験問題(前期日程)

国語

注意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十一ページ、解答用紙は一枚、下書き用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

令和2年度個別学力試験（前期日程）「国語」

<訂正箇所>

8ページ 大問 三 本文13行目

<訂正内容>

(誤) . . . 能あるを思い出づる習ひなり。

(正) . . . 能あるを思ひ出づる習ひなり。

一

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(長谷川宏『ことばへの道』による。なお、本文の一部を改変した。)

(注1) 『盲目物語』——盲目のあんま師が、自分が仕えた信長の妹お市の半生を語る小説。

(注2) ソシユール——一八五七—一九一三。スイスの言語学者。

(注3) 時枝誠記——一九〇〇—一九六七。国語学者。ソシユールの言語論を「言語過程説」の立場から批判した。

問一 傍線部1～4を漢字に書き改めよ。

問二 筆者は傍線部A「ねこ」という例を「例外」としているが、何に対するどのような例外となるのか、本文に即して説明せよ。

問三 空欄B・Cに入れるのに適当な語句を、本文中から選んで答えよ。

問四 傍線部D「ソシユールの文字観よりもずっと奥行きのかい文字観が提示されている」について、ソシユールと時枝との文字観の違いを本文に即して説明せよ。

問五 傍線部E「文字の物理的性質をことばのなかにきちんと取りこむ」とはどのようなことか、本文に即して説明せよ。

二

次の二つの文章を読んで、問いに答えよ。

〔文章Ⅰ〕

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(池上彰『わかりやすさの罠 池上流「知る力」の鍛え方』による)

〔文章Ⅱ〕

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(山鳥重『わかる』とはどういうことか―認識の脳科学』による)

問 「わかりやすさ」の罫にはまらないために、あなたはどのようにすればよいと考えるか。〔文章Ⅰ〕及び〔文章Ⅱ〕を踏まえ、具体例や根拠を挙げながら述べよ。(解答は解答欄をほぼ満たす程度とすること。なお、解答用紙のほかに下書き用紙を用意してあるので使用してもよい。ただし必ず解答用紙に清書すること。)

三

次の文章を読んで、問いに答えよ。

ある人はいはく、もとより、その道々の家に生れぬるは、さることなり、さなきたくひも、ほどほどにつけては、能は必ずあるべきなり。なかにも氏をうけたる者、芸おろかにして、氏をつがぬたくひあり。道にあらざるたくひ、能によりて、道にいたる徳もあれば、氏をつがむがため、道にいたらむがために、かれもこれも、ともにはげむべし。

なにとなく居まじりたるをりは、そのけぢめ見えざれども、芸能につけて、召し出され、ただうちあるわれどちの遊び、かたへにぬき出でて、なにごとをもしたらむは、雲泥の心地して、人目いみじくおぼえぬべし。

すべて、みめよく、品高けれども、あやしきやしが能あるに、立ちならぶをりは、その品、そのみめも必ず思ひ消たるものなり。たとへば、花のあたりの常磐木は、うち見るに、たとへなく、さめたれども、春の日数暮れ、峯の嵐過ぎぬるのちに、緑ばかり残りて、仮の匂ひ、とどまらざるがごとし。

されば、

桃李は一旦の栄花なり

松樹は千年の貞木なり

といへり。

いみじくあつて、身の能なきが、一人あるを見るだに、能あるを思い出づる習ひなり。いはむや、能にならぶをりのけぢめをや。いかにいはむや、同じやうなるが、一人は能ありて、一人は能なきをや。

なかにも、世の中のかはりゆくさま、昔よりは次第に衰へもて行くにつけつつ、道々の才芸も、また父祖には及びがたき習ひなれば、藍よりも青からむことは、まことにまれなりといへども、かたのごとくなりとも、箕裘の業をつがざらむ、くちをしかりぬべし。

(注1) われどち——自分たち同士。

(注2) 箕裘の業——家の生業のこと。

(『十訓抄』による)

問一 傍線部ア「その道々の家」とはどのような家のことか、説明せよ。

問二 傍線部イ「人目いみじくおぼえぬべし」を口語訳せよ。

問三 傍線部ウ「桃李」と傍線部エ「松樹」は、それぞれ何をたとえているか、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部オ「藍よりも青からむこと」とは、ここではどのようなことを言っているのか、説明せよ。

四

次の文章を読んで、問いに答えよ。(設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある)

庾冰嘗令郭璞筮其墓以占後嗣卦成曰卿諸子並

貴然有白龍者凶徵也若墓碑生金乃庾氏之大忌後冰

子蘊為広州刺史妾房內忽有新生白狗子莫知其來妾秘

愛不令蘊知狗轉長大蘊入見狗異於常狗共怪之將出共

視在衆人前忽失所在蘊慨然曰殆白龍乎庾氏之禍至矣

又墓碑生金俄為桓温所滅如璞之言異哉

(『新編分門古今類事』による)

(注1) 庾冰——六朝晋の政治家・軍人。(注2) 郭璞——六朝晋の文学者。予言者として様々な逸話がある。

(注3) 筮——中国古代の占いの一種。(注4) 卦——占いの結果。

(注5) 広州刺史——広州は中国南部の行政区域。刺史は州の長官。(注6) 狗——いぬ。

(注7) 桓温——六朝晋の政治家・軍人。

問一 傍線部 a「嘗」、b「若」、c「乃」の読みを、送り仮名を含めて答えよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問二 二重傍線部 1「不令蘊知」を、口語訳せよ。

問三 二重傍線部 2「殆白龍乎」について、なぜ蘊は、「白龍」であると考えたのか、わかりやすく説明せよ。

問四 二重傍線部 3「為桓温所滅」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。ただし、「桓温」は「か
んおん」と読むこと。